

未来を見つめる精神科医療

精神科医療は時代の変遷とともに変化してきました。特に近年は地域医療の推進に重点を置き、入院治療からの脱却を図ろうとしています。しかし既存の支援やサービスでは障害の程度により遅々として進まない方も多いです。

そのための取り組みの一つとして慈生病院では2014年よりACTサービスを導入しました。

ACT (Assertive Community Treatment) (Assessment, Treatment, Community)

② 地域医療 新たな取り組み

HARE ACTの支援

慈生病院病棟医長

岡 沢 郎

副看護師長

上 村 聰



うえむら・さとし 岡山看護専門学校卒。倉吉病院を経て慈生病院へ。病棟勤務をしていく中で退院支援、地域移行支援に関心を持ち、2010年精神科認定看護師取得。現在慈生病院HARE ACTのチームリーダー。鳥取県出身。

おかだくろう 岡山県立高岡高校、

岡山大学医学部卒。岡山大学医学部付属病院精神神経科、慈生病院山陽病院下司病院を経て2008年より再び慈生病院へ。精神保健指定医、精神保健判定医、日本精神神経学会専門医・指導医。

Treatment II包

括型地域生活支援プログラム

(ム)とは、精神疾患を持つ

方が住みなれた場所で希望

をもち、自立した生活を送

るための地域医療の一環で

す。慈生病院のACTは「ひ

と自分らしく生きること

HARE ACT (晴れアクト) の名称で活動してい

ます。

特徴として、①24時間3

65日の支援体制をとっ

てます。

います②利用者や家族が生

活している場に直接訪問し

ます③医師・看護師・保健

師・精神保健福祉士・作業

療法士などの多職種チーム

で多面的にサービスを提供

します④対象は統合失調症

や気分障害などで症状が安

定せず入退院を繰り返して

いる方や、重症化した症状

のために地域生活に困難を

感じている方です。

本来のACTでは未治療

や治療中止の方も支援して

いますが、HARE ACT

Tでは対象者を限定した中

で前記のサービスを行って

います。

その中の1人に強い引き

こもりに陥り治療中断とな

つてしまつた統合失調症の

つです。

ACTの訪問が開始され

た時は、あぐらで短時間座

れないほど筋力は落ち、重

度の糖尿病と肥満からほと

んど寝ていました。訪問に

つては家族などの協力も

あります。スムーズだったのが

幸いでした。

「われわれは味方ですよ

」というスタンスを崩さず関

りを続けさせてもらうなか

で、少しずつ彼自身の言葉

が生まれてきました。興味

があること、やってみたい

ことなどを彼独特の言い回

しで話すうちに外に出たい

気持ちがあることが伝わっ

てきました。

家から出られない間はい

つ外に出てもいいようにラ

ジオ体操や卓上ゲーム、勉

強や筋トレ、歌などを繰り

返し行いながら全身を鍛え

ています。

彼の願いである「幸せになれる」支援を目指してHARE ACTは今日も訪

問っています。

岡山大学医学部卒。岡山大学医学部付属病院精神神経科、慈生病院山陽病院下司病院を経て2008年より再び慈生病院へ。精神保健指定医、精神保健判定医、日本精神神経学会専門医・指導医。

おかだくろう 岡山県立高岡高校、

岡山大学医学部卒。岡山大学医学

部付属病院精神神経科、慈生病院

山陽病院下司病院を経て200

0年より再び慈生病院へ。精神保

健指定医、精神保健判定医、日本

精神神経学会専門医・指導医。

身。

うえむら・さとし 岡山看護専門学校卒。倉吉病院を経て慈生病院へ。病棟勤務をしていく中で退院支援、地域移行支援に関心を持ち、2010年精神科認定看護師取得。現在慈生病院HARE ACTのチームリーダー。鳥取県出身。

HARE ACTチーム。左か

スタッフ同伴で神社を参拝

え

てきました。

「神社の参拝」でした。引

きこもる前は1人で参拝す

るのを日課にしていまし

た。それを再度チャレンジ

したいという気持ちが出て

きました。

6年ぶりの外出です。「こ

えー、こえー」「今日はや

めよう」と尻込みもしてい

ましたが、われわれスタッフ

も諦めず鼓舞激励のなか

で一緒に参拝をしていきま

した。

参拝をするといつも「幸

せになりますように」と声

を出して繰り返し願つてい

ます。彼は自分の意思で自

立への一步を踏み出していく

ます。今では数十カ所の寺

院を参拝し、体力もついて

きました。外来への受診も

スタッフ同伴で行けるよう

になりました。今では数

十カ所の寺院を参拝する

ようになりました。

彼の願いである「幸せにな

れる」支援を目指してHARE

ACTは今日も訪

問っています。

40歳代の男性がいます。「外

に出たら攻撃される」「だ

れかに見張られている」と

いう妄想が生活を脅かし、

施錠しており家族も大変

困惑していました。

6年ぶりの外出です。「こ

えー、こえー」「今日はや

めよう」と尻込みもしてい

ましたが、家の窓も扉も常

に施錠しており家族も大変

困惑していました。

6年ぶりの外出です。「こ

えー、こえー」「今日はや

めよう」と尻込みもしてい